

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年3月18日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	
法人名	(有)イーライフ
事業所名	グループホーム明
所在地	鹿児島県鹿屋市祓川町3982番地1 (電話)
自己評価作成日	令和4年2月8日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和4年3月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念である、安心安全で穏やかな暮らし、健康で快適な暮らし、認知症になっても普通の生活が続けられる暮らし、地域と共に支え、支えられる明るい暮らしが、実践出来る様に努めています。又最後までホームで暮らし続けられる様に、終末期には医療機関や訪問看護と連携して、穏やかに最後を迎える事が出来る様に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは市街地近く、県道を少し入ったところにあり、近くには協力医療機関や小学校がある、陽当たり良好の事業所である。地域住民の一員として自治会に加入し、年2回地域の清掃活動に参加するほか、小学校の文化祭による交流や散歩に出かけ地域の人と挨拶や会話を交わす等の交流を日々行っている。

重度化した場合のホームの対応について「重度化した場合の対応に係る指針」を準備し入居時に説明して同意を得ると共に、入居後も状態や意向の変化に応じて繰り返し家族に指針を説明することで、変化する家族の思いに対応している。また、これまでに看取りを行った事例は多く、内部研修や外部研修を計画的に組み込み、職員のスキルアップを図っている。

予め献立表は作らず、当日利用者に食べたいものを尋ねて決めたり、調理の下ごしらえを手伝ってもらうなど、できることに参加してもらい楽しく過ごしている。また、おせち料理やひな祭りメニュー、夏のソーメン流しやクリスマスメニュー等、コロナ禍で外出できない分、季節の行事食に工夫を凝らし提供している。

コロナ禍で思うように外出できないが、屋内ばかりではストレスにつながる恐れがあるため、季節の花見や近隣ドライブ等、人混みを避けた場所に出かける機会を作っている。また、これまでの馴染みの美容室やお墓参りには家族の協力ももらい、感染症対策を十分に行ったうえで外出を支援している。

自己評価	外部評価	項 目	穏やか館	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	安心、安全で穏やかな温もりある暮らし。そして地域と共に支え合いながら明るく生活が送れるよう理念を掲げ、職員で共有しサービスを提供している	毎月のケア会議で理念が利用者の思いに即しているか確認すると共に、フロアと玄関に理念を掲示して唱和することで意識付けを図っている。職員は安心して過ごせる環境を提供したいと日々努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会にも加入し、年数回の奉仕作業にも参加している。施設での行事の時は地域の方々との交流を図る為の声掛けを行っていたが、コロナ禍の為行うことができていない。	自治会に加入し年2回地域の清掃活動に参加している。小学校の文化祭に参加したり、踊りやゲームの慰問に来てもらう等して交流している。地域住民から野菜の差し入れをもらったり、散歩途中に挨拶や会話を交わすこともある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	施設での行事等に招待し職員が研修会等で学んだ事を基に介護相談にのっていたが、コロナ禍の為できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	多種多様な方々より率直な意見を頂きサービスの向上や改善に努めている。しかし、今年度はコロナ禍の為文章送付にて意見を求めた。	書面に代えての開催が多かったが、感染状況が落ち着いた昨年12月には実際にメンバー参加による会議を開催することができた。会議には家族や民生委員、市議や消防団長、行政等が参加して、ホームの活動内容の報告やヒヤリハット報告等を行った。	

自己評価	外部評価	項 目	穏やか館	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時市の担当者へ連絡し相談したり、意見を求めたりし、協力関係を築くよう取り組んでいる。また運営推進介護の時相談させていただく	介護保険関係の書類提出や制度改正による不明点の相談に電話や出向く等して助言をもらっている。また、運営推進会議で顔を合わせるほか、リモートによる集団指導への参加等により意見交換する機会がある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修会を職員全員が受けられるよう交代で参加し、正しく理解し、拘束しないケアに取り組んでいる（コロナ禍の為にリモート研修）	身体拘束や虐待に関する研修を年1回実施すると共に、毎月のケア会議において拘束の弊害や拘束のないケアについて話し合っている。利用者が外出しそうな様子を察知した際は、職員間で情報を共有し、また、支援方法をケアプランに組み込むことで統一を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止などの研修を職員全員が受けられるよう交代で参加している。事業所内で職員間の声掛けを行い、虐待防止のケアに努めている。コロナ禍の為にリモート研修。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様のキーパーソンとなる方が成年後見人というケースが増えてきている。その方々から話を聞いたり、研修にて学び活動支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	穏やか館	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約の時は十分な説明を行い、その中での疑問・質問を受けている。また制度改定等では説明を行い同意書を頂き、納得を図っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、現状報告を行い、ご家族からの要望や意見の聞き取りをしている。現在コロナ禍にて電話で行っているそれらの意見や要望を取入れ運営に反映させている。	コロナ禍で家族会が実施できない現在、家族にLINEで写真を送信したり、行事の写真に手紙を添えて送付する等して意見や感想をもらっている。家に帰りたいとの要望には、電話で家族と会話をしたり、外出の機会を作る等して対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議で職員の意見や提案を聞き取り運営に反映させている。また、個々に意見を求めたりもする。	毎日の申し送り時や毎月の職員会議で職員の意見や提案を聞き取るほか、状況に応じて個別面談を実施したり、職員会議では全員に意見を求める等、意見を出しやすいよう工夫している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれのスキルアップの努力・実績を把握し、向上心を持って働けるよう支援している。また、毎月の勤務希望を取入れ働きやすい職場環境作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	穏やか館	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会やその他の色々な分野での研修が受けられるよう働きかけ、又個々のスキルアップの為に支援に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の方々と意見交換できるようなネットワーク作り、又その中での指導頂いたりしながら、自分たちのサービスの質向上を図る		

自己評価	外部評価	項 目	穏やか館	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人より、今までの生活内容、また心配に思っている事に耳を傾け話し合いを何回も行い信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が不安に思い困っている事また、要望等に耳を傾ける。本人より聞き取れなかった細かな情報など傾聴することで良好的関係作りに努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に聞き取りや情報提供をもらい、今必要とされるサービスの見極めを行う。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所者、一人ひとりの能力に応じた「できること」はやってもらい、出来ない事は声をかけながら共に行う。		

自己評価	外部評価	項 目	穏やか館	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族ならではの支援をお願いし、協力を求める。面会（コロナ禍の為にリモート・窓越し・電話）にて一緒に過ごせる場所、時間の提供を行い、共に支える関係を築く。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍に有り以前のような交流は難しいが少人数での自宅近くのドライブ等実施している	友人や知人等との関係が継続できるよう、電話や手紙の取り次ぎを行ったり、馴染みの精米所に利用者と一緒に出かけるなど交流している。また、お墓参りを希望された際は職員が同行する等、コロナ感染症に配慮しながら出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースでテレビを一緒に観たり、体操、レクリエーション等を声掛けしながら参加出来るように支援している。（孤立させない声掛け支援）		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後もしばしばご家族の方を通じて、その後の状況を尋ねたりしている		

自己評価	外部評価	項 目	穏やか館	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「家に帰りたい」と本人の訴えもあるも家族の思いがあり困難なことがあった	日差も考慮した様子観察や何気ない日常会話、訴え等にも耳を傾け、気づきをスタッフ申し送りノートに記入して情報共有を図り、状況に応じて支援策について話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や生活環境等は家族や居宅サービス事業所からの情報を収集し経過の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日2回のバイタルチェックを行い、一人ひとりの心身の状況に応じて一日の過ごし方を工夫し現状の把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	意思表示が可能な利用者様には意向に添えるように家族やスタッフにて話し合いながら現状に即した介護計画を作成している	利用者の思いや意向は日常会話や様子等から、家族の意向は面会時や電話で尋ねプランに反映させている。また、主治医も担当者会議に参加したり、欠席の場合は情報提供により意見をもらいプランに組み込んでいる。作成後のプランはカンファレンスやモニタリングによりこまめに内容を確認し、状況に応じて作り直すこともある。	

自己評価	外部評価	項 目	穏やか館	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中の様子や受診、家族の面会等、個別に記録し職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	歯科や皮膚科受診等、体調変化に応じた他科受診を速やかに行い柔軟な支援が来ている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で外出の機会もなく、又地域との関わりも少なかった。園外散歩の際は近隣の方々と会話弾んでいる		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前から信頼関係にあったかかりつけ医は入所後も継続し適切な医療を受けられるよう支援している。（初診の時は家族へ同行の声掛け）	訪問診療や訪問看護による安心から利用者全員が協力医療機関をかかりつけ医としている。受診の内容は申し送りノートや業務日誌に記入して閲覧や報告等により情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項 目	穏やか館	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の利用者様の健康状態を把握し変化があれば看護・介護職員と共有し合い必要に応じて受診や看護が受けられるように支援、週1回訪問看護師と連携を取り合っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合は病院での状態を情報共有し本人が安心して治療ができるように相談に応じている。ホームに速く帰りたい人には医者の指示があれば早期退院できるように受け入れに備えている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始前に家族の意向をしつかり聞き取り本人の気持ちも考慮したうえで話し合いを行い本人も家族も心残りがないように支援に取り組んでいる。	「重度化した場合の対応に係る指針」を準備し、入浴時に看取りに関する項目と共に説明し同意をもらっている。また、入居後も状態変化等に応じて繰り返し家族に確認することで、変化する家族の思いに対応している。訪問看護主催の研修に参加し事例報告を行う等、これまでに看取りの事例を多く経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な消防訓練や急変時のマニュアルに沿って初期対応の行動を密に情報交換している		

自己評価	外部評価	項 目	穏やか館	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、自主訓練と消防訓練（地域との協力）等の火災訓練を実施している。利用者・職員全員参加している	年2回夜間想定を含む災害訓練を防災設備会社の職員と共に実施している。川が近く水害対策が必要なため、避難場所までの避難経路の確認をこまめに実施している。備蓄は飲料水やレトルト等食料を約3日分程度備えると共に、ヘルメットや懐中電灯等も準備している。	

自己評価	外部評価	項 目	穏やか館	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	オムツ交換、トイレ使用時はカーテン扉を閉めプライバシー確保に努める。人権を尊重した声掛けを行う。	権利擁護やBPSDについての研修会を年間計画に組み込み実施している。トイレを促す際は耳元でさり気なく声をかけ羞恥心に配慮したり、食べたいものや飲み物を尋ね、本人に決めてもらう等、本人本位の生活を支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人の思いや希望を聞き、気持ちよく自己決定できるよう支援している。また、意思表示困難な方は、日頃の様子にて思いをくみ取るよう努める。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日常生活を送って頂きながらも、本人の希望に合わせ声掛け支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	以前は、美容師に散髪してもらっていたが、コロナ禍の為、職員が支援している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや、お盆拭きなど、出来る事を手伝ってもらっている	当日のメニューを利用者に尋ねて決めたり、調理の下ごしらえを手伝ってもらう等、食事時間が楽しみになるよう工夫している。また、おせち料理やクリスマスメニュー等の季節の行事食にこだわる等、食べる楽しみを大切に考え支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	穏やか館	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調に合わせた食事量の調整を行っている。水分はお茶だけでなく色々な飲み物を提供している、また、水分制限の方は、記録表を作成し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアを行い、自らできない人は、口腔内を確認して、全介助・一部介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録簿を活用し、トイレの声掛け誘導を行い。入居者様の排泄パターンをしっかり把握するようにしている	排泄チェック表により個々の排泄パターンを把握すると共に、日中はトイレ誘導を基本とすることで、なるべく排泄用具に頼らない支援を行っている。また、職員間で介助方法を統一できるよう、常に情報共有を図りながらケアにつなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録を参考に一人ひとりの状態を把握し、腹部マッサージや運動、必要時は下剤・浣腸にて支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	穏やか館	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴予定表はあるが、当日本人の体調や状態を考慮し無理強いない入浴支援をい行っている。	隔日の入浴を基本としているが、希望や状況に応じて随時入浴は可能である。楽しく入浴できるよう冬至にゆず湯を提供したり、入浴剤を使用することもある。入浴をためらう場合は翌日の入浴にする等、無理強いない支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不眠時は、日中でもベッドで休んでいただくようにしている。本人の希望に添った休息の支援を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の目的や副作用、用法や用量についても理解している。服薬の際にもチェックをし服用してもらっている、また一部介助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	能力に応じた家事手伝いやレクリエーション参加への声掛けを行い、役割や楽しみを持っていたけよう支援している。嗜好の把握を行い提供している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で、あまり外出もできない状態であるが利用者様の状態に合わせ受診の際の家族との面会や園外散歩、ドライブなど行っている	コロナ禍のため、これまでのように自由に外出することは難しいが、屋内ばかりではストレスにつながるため、あじさいやコスモス等の季節の花見や近隣ドライブ等に出かける機会を設けている。また、お墓参りや美容室等、家族の協力をもらいながら出かける機会を作っている。	

自己評価	外部評価	項 目	穏やか館	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブル回避の為家族の了解を得て事業所にて管理を行い、利用者の希望する買い物は職員にて代行している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人の希望に応じ、家族へ電話をするための支援を行っている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースにて季節の歌や花々を動画で鑑賞する等、室内での楽しみをSNSを活用している、空調環境を整え居心地よく過ごせるよう努めている。	折り紙で作った雛人形等、利用者と職員が季節に合わせて一緒に作った作品を飾っている。各ユニットに3箇所ずつあるトイレは手すりが充実しているため、移乗や整容、また介助スペースも十分確保されており利用しやすい。感染症対策としての消毒は日々徹底させており、特に車椅子の方の高さに合わせた消毒にも気を配っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	3人掛けソファを共有スペースに置き、iPadを使用し個々に好きな動画を鑑賞したり、頭脳ゲーム等で楽しめるよう工夫している		

自己評価	外部評価	項 目	穏やか館	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族写真や施設での行事ごとの写真を掲示し、レクリエーションにて作成した物を掲示している	エアコン、電動ベッド、クローゼットが備え付けられている。また、自宅から持ち込まれたテレビや位牌、ラジオ等を自由に配置する等、居心地に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人が希望され、居室には名札を表示している。それを理解され、自ら自室にもどられる。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない